

様式1 令和3年度 山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	保護者及び関係機関との連携を推進し、「たくましい力」と「ゆたかな心」を持った児童生徒の育成を図る
-----------	--

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校 校長 荒川昌浩

本年度の重点目標	1 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行い、確かな学力を育成する
	2 保護者や地域と連携を深めるとともに地域における特別支援教育を推進する
	3 安全・安心な学習環境を充実する。
	4 教員の働き方改革を推進する。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

本年度の重点目標			年度末評価(2月21日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策

1	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援による確かな学力の育成	授業研究や校内研修を進め、個に応じた指導に係る教職員の専門性向上に努める。	研究会の開催状況 研究のまとめの作成
		明確な評価規準や評価方法を教師間で共有し、学習状況を的確に捉え、授業改善につなげることができるように適切な評価を実施する。	個別の指導計画 学部会、職員会議等での共通理解
		各学部のキャリア教育の在り方を明確化し、系統性のあるキャリア教育を実施する。	キャリア教育全体計画の見直し キャリアパスポートの作成状況

2	保護者や地域との連携と地域における特別支援教育の推進	地域の小・中学校との交流及び共同学習ならびに保護者や地域との交流活動を推進する。	交流及び共同学習や交流活動の実施状況
		HPを見やすく変更することで活用につなげ、保護者や地域にふじかわ分校の教育活動に関する情報を適切に提供する。	HPの更新状況 学部だより等の発行
		地域のニーズを踏まえたセンター的機能を発揮する。	各種会議の開催 教育事務所との連携 地域支援だよりの発行

3	安全・安心な学習環境の充実	スクールバスの運行体制や非常災害時における対応等について、保護者や教職員間の共通理解を図り、スクールバスの安全運行に努める。	スクールバス運営委員会での評価
		危機管理マニュアルを継続的に見直し、非常食や備蓄品の管理を適切に行う。また災害発生に備えた各種訓練内容を検討し実践的訓練を実施する。	非常食等管理リストの作成 各種訓練の実施状況
		新型コロナウイルス感染症への対応を継続する。医療ケア、DVIに関するマニュアルを作成する。学校での児童生徒の事故や急病等に備え医療機関や救急隊員に引き継ぐまでの体制を明確にし、緊急時の対応について訓練を実施する。学部を超えて連携し安心できる環境づくりを行う。	マニュアル作成と緊急時シミュレーション訓練の実施状況

4	教員の働き方改革の推進	健康教育推進のため、職員の健康管理を推進する。定時退校、年休消化の実践により私生活を充実させ教育の充実に反映させる。	定時退校日、年休消化状況。
---	-------------	--	---------------

【研究】
・1学期に児童生徒の気になる行動から「願い」を推測した。2学期には、小学部では授業研究、中学部では事例研究を実施した。支援・指導方法や教材の工夫、環境設定など学部毎に話し合いを重ね、より良い授業づくりにつなげることができた。研修会は、8月と1月に実施した。夏季研修会では、外部講師を招聘し行った。
・研修については、今年度は、ICTに関する研修や、一人いち実践等、喫緊のテーマについて取り組むことができた。
【小学部】
評価担当が複数に渡る授業では、毎回の児童の様子を文章で記録し、共有できるように心がけた。
【中学部】
評価と指導の一体化を意識し、指導案を作成した。また、個別の指導計画の指導目標をあゆみ(通知表)における評価項目とした。
・評価規準については難しい面もあるが、複数の職員で評価を行ったり、定期的に行ったりといった方向性は確認できた。授業改善にもつながる評価時に出された課題等も、指導計画の書式に生かすことができた。
【小学部】
児童に分かりやすいようにイラストを用いて、学期の目標を考えたり、反省したり取り組みキャリアパスポートにまとめた。
【中学部】
学期はじめと学期末にキャリアパスポートを記入。キャリア教育の視点で個々の実態を教師間で共有したりキャリア教育について系統化を図ったりすることはできなかった。
・キャリアパスポートは2年目ということで、取組が安定した。

【交流教育】
・学校間交流では、小学部が相手校へ行き直接交流をすることができた。地域交流では、屋外での活動に変えることで小・中とも直接交流をすることができた。居住地校交流では、4名の居住地校でそれぞれ計画通りに行くことができた。
・コロナ禍でも、屋外での活動(球根植え)、教材(昔の遊び、手作りおもちゃ)の借用、関連品の贈与等、色々な関りを地域交流の相手と持つことができた。
【情報】
HPの簡単な改装と月に一回何かしらの更新をするように心がけた。今までは更新履歴が残らず、何が更新されたかわからない状況だったので、更新履歴がわかるように改装を行った。更新に関してはできなかった月もあったが、小、中学部の様子を伝えることが概ね達成することができた。地域支援だよりも発行の度に掲載することができてよかった。
・HPは昨年度の評価からの反省を受け、定期的に更新を行うことができた。
【地域支援】
・年間を通して地域の連携支援会議等に参加。
・地域のネットワーク作りをテーマとし、発達障害児連携支援研修会を2回開催。
・地域の関係機関に向けて地域支援だよりを年間4回発行。
・コロナ禍でも訪問支援、研修支援、専門家帯同など、地域のセンターとしての役割を充実に果たすことができた。

【生徒指導・環境防災】
・年度初めに、スクールバス内に置いてある非常用の持ち物の点検を行ったり、スクールバスに乗っている際の地震避難訓練なども実施することができた。
・スクールバス業者と、運営委員会(3回のうち1回は全教員参加)を行い、意思の疎通を図ることができた。
・危機管理マニュアルの見直しを行い、水害や地震などの災害時の備えについて検討した。非常食のリストに基づき、定期的に補充を行うことができた。また、各児童生徒の非常持ち出しリュックの非常食などの点検を継続的に行っている。土砂災害や洪水など、学校の立地に対応した災害について避難訓練を実施することができた。
・火災や不審者対応などの防犯訓練などを行い教師間での役割分担を確認することができた。
・避難訓練は安全教育とセットで計画的に、丁寧に取り組めた。中部小への避難、抜き打ち、SB乗車時など実践的であった。
【保健】
・新型コロナウイルスへの感染予防対策は継続して行った。玄関のモニター型非接触体温計の導入や各クラスへ自動手指消毒器の設置等、物品の拡充も行った。校内救急体制は分校の職員体制に従ってより少ない人数で対応できるよう、見直しをした。医療的ケアは実施要綱に基づいて個別マニュアルを作成し、担任・看護師・養教・保護者が連携して実施している。
・コロナ対応は小さい学校の利点を生かしながら、丁寧に取り組めた。

・多忙化対策として、年休取得など、自己観察書に加えることで、意識的に取得に向け取り組めて良かった。できる限り時間を減らそうという意識が職員間に育った。年間15日以上の年休消化を目標に計画的に取得した。

【研究】
1学期の「願い」の検討では、各学部で共有できたことで指導に一貫性が出て、児童生徒の行動変容も大きかった。しかし、年度はじめに確認したものの、「願い」という主観的なものの捉え方が教員それぞれで異なってしまう、何らかの共通確認していく必要があった。2学期には、授業研究・事例研究を行った。支援・指導方法や教材の工夫、環境設定など学部毎に話し合いを重ね、児童生徒の行動変容、より良い授業づくりにつなげることができた。研修会では、本校の課題を踏まえた上で、今年度の校内研究に沿った研修会を実施し、実践に生かすことのできる研修会を行うことができた。
【小学部】
個別の指導計画の作成に伴って、観点別に目標を記載し、評価もしやすい面もあった。反面、その授業における目標を全て記載する訳にはいかず、どの目標を選ぶのか妥当性については引き続き検討が必要である。
・評価規準について
・児童生徒自身が過去と比較して自身の成長を感じられるひとつのツールとしてできるよう、その生かし方を検討している。
【中学部】
新学習指導要領に沿った観点別評価について理解を深める必要がある。また、学習評価の結果を授業改善や指導に繋げていくことが課題である。各教科のキャリア教育の在り方や関連性、個々の系統性のあるキャリア教育の進め方などキャリア教育全体計画の見直しと職員間で共通理解を図れる機会(場)が必要。

【交流教育】
・感染症の広がりがあり、行えなかった交流もあるが、地域の方の理解協力があり、間接交流を含めるとほぼ行うことができた。屋外での活動を考えることが難しかったり、高齢によるための会員減少もあつたりするので、交流する団体を新しく模索していく必要がある。
【情報】
月一で更新予定であったが、長期休みの後は写真もなく更新することができなかった。更新を待っている保護者もいたということなので、来年度はできるだけ月一更新ができれば良いと思った。ただ、全体行事がない中で他学部の様子を書くことが難しいので、学部で協力して記事が書ければ良いと思う。
・HPは必要な提出書式等を取り出せるような運用ができると良い。
【地域支援】
・発達障害児連携支援研修会については、地域の関係機関の役割を整理し、実際の支援に生かすことのできる内容となった。次年度以降の本校のかかわり方については検討していく。
・地域支援だよりでは、本校のセンター的機能の活用や学部見学会の案内、障害理解に関する情報提供を行うことができた。引き続き支援だよりの発行を継続していく。

【生徒指導・環境防災】
学期に1度施設設備の点検を行い児童生徒が安心安全な学校生活を送れるよう配慮することができた。災害時の危機管理マニュアルも検討した。学校の立地条件を考えるとこれ以上の防災対策を考えることは難しい。危険な状況になる前に避難を完了する(体校も含め)方法を検討していくことが課題である。
登下校の際の災害(水害、地震)などに対するマニュアルやバス内での体調不良者に対応するマニュアルも検討したが、バス内での嘔吐に対するマニュアルの検討を行うことが今後の課題である。
・避難訓練については、地域と合同のものが実施できると良い。
・飛び出し時の連携を確認していくことが望ましい。
【保健】
・年間を通して感染症対策を緊張感持って行うために、分掌としても呼びかけや掲示等をより活用していく。感染拡大の影響で今年度も消防署と連携した緊急時シミュレーションを行えなかったため、来年度はリモート等も活用し、消防署と連携した救急体制を全職員に周知徹底できるようにする。
・学校のコロナ対応について、職員会議等で定期的に確認できるとよい。

・夏季休業、冬季休業等を活用し積極的に年休消化をとることができた。積極的に休暇をとりやすい環境であった。
・業務の整理がついた日は有休を細切れに取得して一時間早く帰宅するなど、有休消化に努めた。

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月7日)	
評価	意見・要望等

3.5
・一人ひとりのニーズに応じた指導が良い。小中と継続して学びの段階を積み重ねていくことを意識し、適切な教育活動を展開してほしい。
・児童・生徒の「願い」を共有でき指導に一貫性が現れ、行動変容につながったことは教職員の観察や研究の成果と評価できる。少人数教育で全職員が子どもの顔と名前が一致する温かい分校の利点を今後も発揮してほしい。
・「適切な指導」や「必要な支援」によって「確かな学力」が育成されたかどうかは資料不足のため評価できないが、自己評価の結果からは「適切な指導」がなされたことは評価できる。その内容が個々の教育ニーズにとって「必要な支援」であったかどうかの検討は今後の課題。
・意思表示が難しい子どもにとっては「願い」がどうしても「推測」になってしまい、主観的になる。標準化された検査結果などの客観的な評価指標や、保護者の「願い」の丁寧な聞き取りから「願い」を「支援ニーズ」に昇華させるようご検討いただきたい。

4
・保護者との信頼関係が築かれていることは大変良いことである。さらに積極的に情報発信し互いに良好な関係を維持してほしい。
・コロナ禍2年目で1年目は違い外部と間接交流が行えよかつた。地域との交流手段が1つでも増えるといい。
・保護者アンケート結果は概ね高評価で良い。アンケート自由記述にもあるように、保護者と学校が連携して「良い分校」にしていってほしい。
・「地域のニーズを踏まえたセンター的機能」について、地域の小中学校は特別支援学校に相談したいことも多いと思うが、情報が整理されていない印象があるので、「ふじかわ分校は何ができるのか」「どのような相談・支援についてどう手続きしていくのか」など具体的にイメージできるような情報提供が必要なのではないか。検討してもらいたい。

3.5
・児童生徒一人ひとりが安全に登校している様子が目に見えるようだ。
・コロナ以降は以前にも増して安全、感染症対策が緻密になり神経を使っている様子がうかがえる。大変な状況だが子どもたちの健康管理への一層の配慮を。
・コロナ禍において安全・安心な学習環境の充実に尽力している。危機管理情報については発信するだけでなく「届いているかどうか」の確認もしてほしい。
・児童生徒が安心して学習活動を継続していくために、教職員の危機意識や危険予知が重要である。コロナ対策を含め、定期的に意見交換して確認してほしい。

4
・教職員アンケートの評価が概ね高かったので「4」と評価する。引き続き、多忙化改善に努めてほしい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。